

平成28年度 全国学力・学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

平成28年度全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生対象・4月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、児童生徒一人一人の学びの充実を図り、「生きる力」を育てるため、引き続き家庭や地域と連携した教育活動の推進に努力してまいります。そのために、学力の特定の一部分ではありますが、本調査の結果を有効に活用していきたいと思ひます。

また本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、ぜひご家庭でもより良い生活の仕方について話し合っていたいただきたいと思います。

【1】勝山市の平均正答率について

勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。

「高い」>3 3≥「やや高い」>1 1≥「同程度」≥-1 -1>「やや低い」≥-3 -3>「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国語 A	同程度	高い
	国語 B	同程度	高い
	算数 A	やや低い	やや高い
	算数 B	やや低い	やや高い
中学校	国語 A	やや高い	高い
	国語 B	やや高い	高い
	数学 A	やや低い	高い
	数学 B	やや低い	高い

A問題：主として「知識」に関する問題

B問題：主として「活用」に関する問題

【2】各教科の概要について

<小学校>

	成 果	課 題
国語	○漢字を正しく読むこと ○文章と資料を関係づけて読むこと ○文字の大きさや配列について用紙全体との関係に注意して考えること	▲物語の複数の文から登場人物についてとらえること ▲インタビューで話し手の意図をとらえながら聞いたり、質問したりすること
算数	○基礎的な計算を正確に行うことや不等号を用いて正しく大小表記すること ○計算結果の見積もりや検算方法について理解すること ○基準量と比較量から、割合を正しく求めること	▲示された式の意味や数値の意味を理解し、適切に記述すること ▲説明するために必要となる条件を明らかにすること ▲基準量と比較量の関係を正しく捉え、割合を百分率で表すこと

○国語では、漢字を正しく読むことや、図と表を関係づけて文章を読むことが特によくできていました。書写で学習した文字と余白のバランスについてもよく理解していることが分かります。

▲しかし、図表やグラフなどから読み取ったことを基に、分かったことや自分の考えを文章にまとめることや、インタビューで相手の発言を受けて質問する内容をまとめることに課題がありました。これらの力は実生活の中でも必要な力となります。国語だけでなく他の教科の学習においても繰り返し取り組むことができるよう工夫していきます。

○算数では、昨年と同様「計算の技能」や「示された図形の面積を求めること」などに成果が見られました。今年度の調査では、加えて「不等号を正しく用いて数の大小を表現すること」が大変よくできていました。基準量と比較量から単純に割合を求めることや、全国的には正答率の低い「～あたり」という考え方をを用いる問題も、よくできていました。

▲計算の技能がある程度定着している一方で、示された計算式の意味や数値の意味を理解し、それはどのようなことを求める計算なのか説明することや、基準量を100%として考え、割合を百分率で表すことなどに課題が見られました。図形に関しても与えられた情報を図形に書き込んで考えることなど、応用的な部分に課題が見られます。一人一人のつまずきに着目し、継続的に学習指導の改善、充実を図っていきます。

<中学校>

	成 果	課 題
国 語	○文脈に即して漢字を正しく読むこと ○目的に応じて必要な情報を読み取ること ○古典の歌に表れた作者の思いを想像すること	▲目的に応じて文章を要約すること ▲複数の資料から情報を読み取り、根拠を明らかにして自分の考えを書くこと
数 学	○正・負の数を含む四則計算を正確に行うことや不等号を用いて正しく大小表記すること ○図形の基礎的な性質を理解し、図形の性質や条件を、記号を用いて表すこと ○資料を整理した表から最頻値を求めること	▲比較量と割合を基に、基準量を文字式で表すこと ▲数学用語や数式を的確に用いて説明すること ▲二元一次方程式の解を座標とする点の集合が直線になることの理解

○国語では、文章を読むことに成果が見られました。筆者の考えや登場人物の心情を読み取る力が特に付いています。授業や読書を通じて、情報を伝達する文章や資料を読み取る力をさらに高めてほしいと思います。

▲一方、読み取ったことを要約してまとめること、根拠を明らかにして自分の考えを書くことに課題がありました。内容を理解していても、複数の条件を満たして文章に表現することは経験も必要です。授業の中で、自分の考えを明らかにして伝える機会を増やす工夫をしていきます。

○数学では、四則計算や方程式を解くこと、図形の基本的な性質を理解すること、確率計算を正確に行うことなどに成果が見られました。不等号を用いて大小関係を式で示すことも正しくできています。また、比例の表を正しく完成させたり変化の割合を求めたりすることにも成果が見られました。

▲しかし、「自然数」「方程式の解」「増加量」「四捨五入」「同様に確からしい」といった数学用語の意味を具体的に理解して判断に生かすことには、課題が見られました。同様に関数についても、「このグラフはこういうことを表している」と説明することや、 x と y の関係を明らかにして数値を求めることなどに課題が見られました。今後の授業では、身に付けた数学用語や考え方を正しく用いて論理的な説明をする経験を増やす工夫をしていきます。

【3】児童生徒質問紙について

(1)「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、県の平均値と比べて、明らかに上回ったものを中心に「良好な点」、明らかに下回ったものを中心に「改善したい点」としました。

<小学校>

良好な点	改善したい点
○ほとんどの児童が朝食を食べ、一定の時刻に起床している。 ○自分にはよいところがあると答えた児童が多い。(83%) ○失敗を恐れず挑戦する児童が多い。(85%) ○将来の夢や目標があると答えた児童が多い。(93%) ○平日1日あたりのテレビ・ビデオの視聴時間が県・国より短い。(ただし、2時間以上視聴が約51%いる。) ○家庭学習に取り組む児童が多い。毎日少なくとも1時間以上取り組む児童は約70%。(ただし、2時間以上家庭学習する児童は18%で、県や国の水準より低い。) ○週に3回以上新聞を読む児童が多い。(52%) ○地域の行事にほとんどの児童が参加している。(93%) ○ボランティア活動に参加経験のある児童が多い。(66%) ○学校のきまりを守る児童が増えた。(昨年85%→今年94%) ○いじめはどんな理由があってもいけないことだと、ほとんどの児童が考えている。(99%) ○読書が好きと答えた児童が多い。(81%)	▲同じ時刻に就寝する児童が県や国の水準より少なく、約46%は10時以降に就寝している。 ▲平日1日あたりのゲーム時間が長い児童が多い。 (4時間以上5% 2時間以上26%) ▲平日1日あたりの携帯電話やスマートフォン利用時間が長い。 (2時間以上8% 1時間以上14%) ▲授業以外で読書を全く、またはほとんどしない児童が25%以上いる。 ▲家で予習・復習をする児童は昨年より減り、県の水準を下回った。 (予習する 昨年60% → 今年52% 復習する 昨年75% → 今年67%)

<中学校>

良好な点	改善したい点
○1日あたりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間は県・国より短く、約65%は1日1時間以下の視聴。 ○1日あたりのゲーム時間は県・国より短い。 (しかし約25%は毎日2時間以上、13%は3時間以上。) ○1日あたりの携帯電話やスマートフォン使用時間は県・国より短い。 (しかし約20%は毎日2時間以上使用している。) ○家庭学習が定着し、平日1日あたり2時間以上している生徒が県・国より非常に多い。(53%) ○土日1日あたり2時間以上家庭学習をする生徒は県・国より非常に多い。(68%) ○家庭で約60%の生徒が予習に、約83%の生徒が復習に取り組んでいる。 ○地域の行事にほとんどの生徒が参加している。(70%) ○学校の規則を守っている生徒が非常に多い。(98%)	▲朝食を全く・ほとんど取らない生徒が増えた。(昨年3% → 今年9%) ▲難しいことにも失敗を恐れず挑戦すると答えた生徒が減った。(昨年77%→今年67%) ▲自分には良いところがある・どちらかといえばあると思う生徒が減った。 (昨年74% → 今年65%) ▲将来の夢や希望を持っている生徒が県の水準を下回った。(市72% 県81%) ▲新聞を毎日または週に3回以上読む生徒が少ない。(19%) ▲いじめはどんな理由があってもいけないと答えた生徒が減り、県・国の水準を下回った。(昨年96% → 今年90%) ▲読書が好きと答えた生徒が減少した。 (昨年74% → 今年62%)

○規則正しい生活習慣を持ち、予習・復習を含めた家庭学習にしっかり取り組む勝山市の児童生徒の良さが表れています。ただ、小学校においては家庭で予習・復習をしている児童が昨年に比べ減っていることが気になりますので、学校での指導を継続します。

○小学校では、「自分にはよいところがある」と答えた児童が増え、県や国の水準を超えました。同様に「難しいことにも失敗を恐れなくて挑戦する」「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童が増え、どちらも県・国の水準を超えました。今後も児童一人一人を見つめ、その努力を褒めるなどの働きかけを通して自己肯定感を高め、夢や希望を持って生活できる児童を育成するよう心がけたいと思います。

▲一方、中学校では「自分には良いところがある」「難しいことにも失敗を恐れなくて挑戦する」と答えた生徒が減少し、県や国の水準を下回りました。同様に「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合も減少し、県の水準に届いていません。このことは、勝山市中学生の教科の正答率がやや下がってしまったことと関連があるかもしれません。生徒たちの成長にとって、自己肯定感を持つことができる環境にあることは極めて重要です。多感な中学時代にこそ、じっくり自己と向き合ったり、夢や希望を思い描いたりする時間を過ごさせたいものです。

○これまでと同様、地域の行事に参加しているという児童生徒は県・国と比較してかなり高く、児童生徒が地域とともにある勝山市の良さが分かります。この良さを生かし、地域に根ざした学校経営をさらに推進したいと思います。

○今年度は、昨年度に引き続き児童生徒のテレビ視聴やゲームにあてる時間、携帯電話やスマートフォンを利用する時間が全体的には県・国よりも短いという方向へ改善されました。ただ、それらを長時間使用する児童生徒が県の水準以上にいることが気になります。デジタルメディアの利用はこれからの社会においては不可欠なものです。児童生徒のメディア利用の仕方には大人の指導によるコントロールが必要です。学校でもスマートルールを利用した指導を継続しますので、ご家庭での指導も引き続きお願いします。

▲なお、小学校では8割以上の児童が「読書が好きだ」と答えている反面、実際は25%の児童が授業以外では読書をしない傾向にあります。中学校では、「読書が好きだ」と答えた生徒が12ポイント減少し、62%となりました。学校や家庭での、読書習慣の確立に向けた指導が望まれます。

（２）正答率との間に関連が見られた質問項目について

約50問ある生活質問項目の中から、学力調査の正答率と関連が見られた項目について、代表的なものを12例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にとりあげてください。

なお、右端欄内のポイント数は、各項目について「当てはまる」と答えた児童・生徒と、「当てはまらない」と答えた児童・生徒との平均正答率のおおよその差を教科ごとに示したものです。

項 目	教科ごとの正答率の差
起床時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語B 21ポイント差 小学算数B 32ポイント差 中学国語B 27ポイント差 中学数学A 23ポイント差
ものごとを最後までやりとげ、嬉しかった経験がある児童生徒は正答率が高い。 3年連続同じ傾向	小学国語A 19ポイント差 小学国語B 22ポイント差 小学算数A 27ポイント差 中学数学A 24ポイント差

自分にはよいところがあると思う児童生徒は正答率が高い。 3年連続同じ傾向	小学算数A 18ポイント差 小学算数B 18ポイント差 中学数学B 10ポイント差
友達の前で、自分の考えや意見を発表することが得意だと思う児童生徒は正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語B 15ポイント差 小学算数B 24ポイント差 中学国語B 18ポイント差 中学数学B 18ポイント差
1日当たりのテレビ・DVD視聴時間が長い児童生徒は正答率が低い。 3年連続同じ傾向 ※小学生では1日4時間以上、中学生では1日2～3時間の視聴をしている児童生徒が全教科で最も正答率が低い。	小学国語B 33ポイント差 小学算数B 26ポイント差 中学国語B 13ポイント差 中学数学B 17ポイント差
1日当たりのゲーム時間が長い児童生徒は正答率が低い。 3年連続同じ傾向 ※1日1時間を越えると正答率が急低下する傾向にある。	小学国語A 16ポイント差 小学算数B 24ポイント差 中学国語B 19ポイント差 中学数学B 19ポイント差
1日当たりの携帯電話・スマートフォンの使用時間が長い児童生徒は正答率が低い。 3年連続同じ傾向	小学国語B 26ポイント差 小学算数A 26ポイント差 中学国語B 16ポイント差 中学数学B 19ポイント差
1日あたりの家庭学習時間が小学生で1～2時間程度、中学生で2～3時間程度の児童生徒は正答率が高い。	小学国語B 18ポイント差 小学算数A 20ポイント差 中学国語B 16ポイント差 中学数学B 17ポイント差
家で、学校の授業の復習をしている児童生徒ほど正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語B 14ポイント差 小学算数B 12ポイント差 中学国語B 16ポイント差 中学数学B 12ポイント差
家での自学自習に教科書を使っている児童生徒は正答率が高い。	小学国語B 14ポイント差 小学算数A 20ポイント差 中学国語B 19ポイント差 中学数学B 22ポイント差
学校で友達と会うことを楽しみにしている児童生徒は正答率が高い。	小学国語B 34ポイント差 小学算数A 33ポイント差 中学国語B 14ポイント差 中学数学A 15ポイント差
総合的な学習の時間に進んで取り組んでいる児童生徒は正答率が高い。 3年連続同じ傾向	小学国語B 10ポイント差 小学算数A 21ポイント差 中学国語B 21ポイント差 中学数学B 16ポイント差

○ここ数年の分析から、教科の正答率と関連があると思われる質問項目は、学年が変わっても共通していることが分かってきました。

○例えば、総合的な学習を肯定的に捉えている児童生徒はA・B両問題で正答率が高い、という傾向が今年度の調査からも明らかになりました。E S Dの視点を生かした環境学習やふるさと学習で身に付けた学習へ向かう姿勢などが、様々な学習場面で良い影響を与えているのでしょう。

○「家庭学習時間がある程度しっかり確保されている児童生徒」の方が、学習面での正答率が高いことは想像できますが、「ものごとを最後までやりとげて達成感を味わった経験のある児童生徒」や、「自己肯定感の高い児童生徒」「学校で友達と会うことを楽しみにしている児童生徒」の正答率が高いことには、注目していく必要があると思います。達成感や満足感、自己肯定感を感じることができる心の安定度が、学習成果にも影響を与えていると考えられるからです。

【4】今後の方針について

(1) 学校で取り組むこと

※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

<ア>教育力のある学級集団の育成

学級集団を育成するという視点を重視し、児童生徒が学び合い、高め合うような学級集団の状態を作るよう工夫します。

<イ>ていねいな教育、鍛える教育の推進

教員が児童生徒一人一人と向き合って、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、見通しと振り返りのある授業を心がけます。また、児童生徒が協力して課題を解決したり、教え合ったりする場面を取り入れ、協働して学びながら様々な課題に挑戦していけるよう工夫します。

(2) ご家庭にお願いしたいこと

<ア>規則正しい生活習慣の定着

生活リズムが崩れる第一歩は夜更かしと、不規則な食事です。なるべく家族そろって朝食や夕食をとること、就寝時刻を家族で決めて、早寝早起きを心がけた生活をするをお願いします。

<イ>テレビやゲーム、携帯電話、スマートフォンに費やす時間のコントロール

市内の全小中学校が「スマートルール」を定め、家庭と連携した節度あるデジタル機器の利用指導を目指しています。これには各ご家庭の協力が欠かせません。児童生徒が賢い使用者として成長していけますよう、大人がよいお手本を示しながら、導いてあげてください。

<ウ>家族の団らんを大切に

家事のお手伝いをしている時や食事のテーブルを囲んでいる時などに、家族で話をしましょう。互いの話を聴き合い、認め合うなどのあたたかなふれ合いが、児童生徒の心の成長には不可欠です。自己肯定感の強さが児童生徒の学習意欲を支える要因ともなります。

【5】むすび

ここ数年の全国学力調査における勝山市の状況を見ると、小学校では市の平均正答率が国語・算数ともに、年々改善しています。平成28年度は算数が若干県平均に及びませんでしたでしたが、ほぼ県平均レベルを維持できていると思います。学習内容によっては県の水準を大きく超えた成果をあげているものもありますので、今後ともしっかりと基礎学力を身につけられるよう、授業改善を図ります。

中学校においてはこれまで、国語・数学ともに市の平均正答率が県平均を上回り、かなり高い水準で推移してきました。平成28年度は、初めて数学が県平均を若干下回りましたが、県平均レベルの学力は身につけていると見て良いでしょう。しかし、小学校・中学校ともに算数・数学が若干とは言え共通して県平均を下回ったことを重視し、各学校の実態に合わせた改善策を講じてまいります。

この全国学力調査では、学校教育の一部を調査したに過ぎません。子どもたちには、多様な面での力を養い、成長していった欲しいと考えます。ただ、将来、社会人として幅広く活躍するには、小中学校での学習内容を十分習得することが重要な基礎になっていきます。そうした観点から、この学力調査の結果を踏まえて、今後さらに効果的な学習の進め方を研究し、一層の学力向上に努力してまいります。

保護者をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。